

令和8年7月

令和7年度 特別の教育課程の実施状況等について

岐阜県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
瑞穂市立南小学校	瑞穂市教育委員会	公立

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学 校 名	特別の教育課程の編成の方針等の 公表 URL
瑞穂市立南小学校	https://edu-mizuho.com/minami-es/20220415_3067/

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の公表 URL	学校関係者評価結果の公表 URL
瑞穂市立南小学校	https://edu-mizuho.com/minami-es/school-evaluation/	https://edu-mizuho.com/minami-es/school-evaluation/

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- ☒計画通り実施できている
- ・一部、計画通り実施できていない
 - ・ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

特記事項なし

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- ☒実施している
- ・実施していない

<特記事項>

H Pに教育課程特例校指定について概要を掲載したり、授業参観や家族参観の機会に授業を公開したりするなどして、理解していただく場を設定している。

3. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

国際化が一層進展する現代社会においては、国際関係や異文化を理解するだけでなく、国際社会の一員としての責任を自覚し、どのように生きていくかを主体的に考える姿勢が求められている。小学校低学年から外国語活動に取り組むことには、複数の教育的効果が期待される。

第一に、外国語を用いたコミュニケーションに対する心理的抵抗感を軽減できる点が挙げられる。低学年は新しい音声や表現に対して柔軟であり、英語の歌やチャンツを通して自然に音声に親しむことができる。この段階で正確な音の聞き取りや発音の基礎を身に付けることは、後の語学学習において大きな利点となる。

第二に、外国語活動は単なる語学習得にとどまらず、コミュニケーション能力の育成にも寄与する。活動を通して相手の意図を理解し、自分の考えを伝えようとする姿勢が育まれることは、国際社会で求められる協働的な態度の基盤となる。

ただ、意欲的に学ぶ一方で、未知の言語である英語に対して「何を言っているかわからない」と不安を感じ、活動に消極的な児童も一定数いる点が課題である。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

低学年においては、外国語に慣れ親しむことを中心として、歌やゲームを通して楽しみながら学習することができ、多くの児童が意欲的に学習に向かうことができている。早い時期から外国語活動、外国語科の教育を行うことで、聞いたり、話したりすることへの抵抗が少ない児童が多くなっている。これらの活動は、学校教育法が求める「社会的な活動を通じて協力する姿勢」や「主体的に社会づくりに関わろうとする態度」の育成にもつながると考えられる。さらに、国際化が進む現代では、外国語を使って意思疎通を図る力がますます重要になっている。学校教育法が掲げる「国際社会の平和と発展に寄与する態度」を育てるためにも、外国語教育は欠かせない基盤であるといえる。

4. 課題の改善のための取組の方向性

昨年度に続き、コミュニケーションを取ろうとする態度の育成を大切にしながら、まずは英語に慣れ親しむことを重視したい。しかし実際には、「何を言っているかわからない」と感じる児童も一定数いる。そのため、活動の流れや時間配分に工夫を加え、英語を“勉強”としてではなく、“体験”として楽しめるような活動を取り入れていきたい。そうすることで、将来的に英語を学び続けようとする意欲につながると考える。

また、他国の文化を身近に感じられるように、日本の文化との比較を行ったり、児童玄関前に外国語コーナーを設けたりすることで、それぞれの文化のよさを実感できるようにしていきたい。